

巻頭言

日本油化学会における 継続と変化

ライオン株式会社 研究開発本部 戸堀悦雄



本年度から企画・部会統括委員会の委員長を務めさせて頂くことになりました。巻頭言という場をお借りして、会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

日本油化学会は、学術と産業のつながりが深い稀有な学会であります。私は企業の立場から活動に参加していますが、研究成果の産業応用の面で本会の存在価値を感じてきました。しかし、現在の日本油化学会は必ずしも順調な状況とはいえません。今後の日本油化学会のさらなる発展に向け、本部主催事業の調整と、専門部会や支部を支援する役割を担う企画・部会統括委員会の立場から、考えを述べさせて頂きたいと思っております。

日本油化学会の活動目的は「油脂・脂質、界面活性剤及びそれらの関連物質に関する科学と技術の進歩を図り、産業の発展及び生活と健康の向上に寄与すること」と定義されています。本部主催事業と専門部会支援の面から本会の発展を支えるには、本部主催セミナーのマンネリ化の打破と、専門部会の活性化と時代の要請に応えるスクラップアンドビルドが必要であると感じています。

フレッシュマンセミナーは、企業入社1~3年の若手研究者向けの教育セミナーとして、会員の皆様より十分な認知度と必要性を認識頂いています。本セミナーは継続すると共に、教本の鮮度管理と改訂版発行の時期見極めを進めていきます。また、試験法や技術の普及・啓蒙に向けた試験法セミナー等は、受講者のニーズに合わせた時期や内容の見直しを始めました。本年、新しい取り組みとして、過去開催していたアドバンスセミナーを見直し、「実践講座」として開催しました。特に界面科学分野では、基礎・応用・測定を連動させるべく、大学の先生による基礎講演、企業研究者による応用例紹介、さらには装置メーカーからの測定装置紹介をセットにした

もので、参加者からも好評を頂いています。今後、参加者のニーズに対応すると共に、日本油化学会以外からの講師の先生や企業研究紹介などを取り入れながらマンネリ化することなく企画していきたいと考えています。

各専門部会への活動支援では、2年前から日本油化学会年会において専門部会主催のシンポジウムに対する助成を行っております。これは専門部会の活性化と共に、最新で高いレベルの発表、注目を集めるテーマを集め、有益で最新情報の提供により参加したくなる年会に貢献すると考えています。また、企画・部会統括委員会では、年2回の専門部会・支部全体会議を通して各専門部会及び支部の活動や運営状況に関しての情報交換を行っています。昨年、「オレオライフサイエンス部会」と「産業技術部会」が統合され、新たに「ライフサイエンス・産業技術部会」が発足し、大きな活性化につながっているようです。今後の専門部会活性化に向けて、専門部会設立当初の目的を振り返り、時代の要請に応えるスクラップアンドビルドを検討すべき時期に来ているのではないかと感じています。

「不易流行」という言葉があります。松尾芭蕉が提唱したと言われる俳諧理念で、「不易」とはいつまでも変化しない本質的なものを意味し、「流行」とは新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと、だそうです。学会運営にこの「不易流行」の考え方をあてはめられるのであれば、学会としての社会的使命をしっかりと認識した上で、築かれた設立当初の精神や基本理念を脈々と受け継ぎつつも、常に時代の流れを察知しながら新しい試みにチャレンジしていく姿勢を忘れない、というイメージでしょうか。日本油化学会の「不易」と「流行」を見極め、以降の発展に貢献したいと考えています。